

昭和電工株式会社 2018年3Q 決算説明会 Q&A 要旨

日時：2018年11月8日（木）18:00～19:00

説明者：取締役 執行役員 CFO 加藤 俊晴

* 内容は、開催日時時点の情報に基づいております。

【全社】

Q 次期中期経営計画において、化学品・エレクトロニクス・アルミニウムの3セグメントの成長を図ることが肝である、という戦略に変わりないか。

A 石油化学・黒鉛電極の好調を受け、これら3つのセグメントに成長投資を集中させていく考えに変わりはない。

Q 次期中期経営計画の中で、電子材料用高純度ガス、MLCC用酸化チタン、パワー半導体用SiC事業における投資の考え方は。また、多額投資が必要になる事業はあるか。

A 設備投資額はそれほど大きくはならない。電子材料用高純度ガスはガスの種類が多く、少額な投資の積み重ねとなる。酸化チタンはお客様の拡大計画に合わせて段階的に引き上げていく。また、パワー半導体用SiCは市場の急成長はこれからであり、大型投資のタイミングを慎重に見極めていく。現在はおお客様の生産能力の拡大に合わせて段階的に引き上げている。

投資計画の詳細は、12月11日の次期中期経営計画発表時にご説明させていただきたい。

Q 有利子負債・D/Eレシオは、“Project2020+”で掲げた目標値を大幅達成することが見えているが、財務戦略をどう考えているか。

A 当初計画を上回るレベルで財務体質の改善が進んでいるが、今の規律を緩めることなく、引き続き財務体質の安定性・継続・強化に注力していく。また、成長に必要な投資については一定のレバレッジを効かせながら今後も積極的に実施していく。

Q 今年は台風が4つ上陸した当たり年であったが、西日本の自然災害の影響について伺いたい。

A 建屋等に多少の影響はあったが、生産設備に損害が生じて出荷が滞るなどの大きな影響は出なかった。

【石油化学セグメント】

Q 3Qまで利益は順調に推移しているが、足元ではエチレンやブタジエン市況が下がっている。期末に向けて進捗はどうか。

A エチレン・ナフサのスプレッドは足元やや低下しているが、欧州他からアジアへの一時的な流入があったため一過性で見ている。一方で、上期実績の\$700/tのスプレッドは出来過ぎで、通常レベルの状況に戻っていくのではないかと見ている。今期予想については、3Qまでの利益に加え下期の織り込みを若干厳しく見ていたことから通期予想レベルの利益を実現できると見ている。当社のエチレンプラントは引き続きフル稼働の見込み。

【無機セグメント】

（黒鉛電極）

Q 黒鉛電極の3Qの販売価格は、昨年平均比で4倍強と説明されたが、2Q、3Qのそれぞれの価格はどうか。また、4Qをどう見込んでいるのか。

A 昨年平均比の各四半期の価格は、1Qは3倍程度、2Qは3倍強であった。下期予想の前提は4倍強で、3Q実績は4倍強となり予想より少し強めとなった。国内・韓国向けの契約価格は、4Qは5倍強まで上昇、その他アジア向け輸出分はもう少し高い。

Q 中国のスポット市況は低下していると言われているが、当社四川の販売価格はどうか。

A LF向けHPの市況は下がっているようだが、当社が販売している高品位なUHPとは状況が異なり、24インチ以上のUHP価格は安定的に推移している。

Q 来年の価格見通しは強含みか。

A 来年分は交渉中。増量要請はあるが、まだ価格交渉には至っていない。需給タイトな状況は全く変わっておらず、価格はさらに上昇する可能性が高いと考えている。

Q NCはかなり逼迫しているようだが、当社米国拠点の増強分の調達には支障ないか。

A 来年分のNCは調達済みである。

Q マレーシア拠点のデボトルネットキングについては、投資の意思決定まで至っていないという理解で良いか。

A そうだ。まず、昭和電工カーボン・ホールディング社との統合効果を出すことに注力している。

以上

* 本資料の将来見通し等に関する記述は、今後以下のような様々な要因により実際の業績と大きく異なる結果となる可能性があります。

・経済情勢、ナフサ等原材料価格、黒鉛電極製品等の需要動向および市況、為替レート

・法改正や訴訟等のリスクなどが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

また、為替レートや国産ナフサ価格など予想の前提につきましては、2018年11月8日発表の弊社決算短信をご参照ください。